

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アートチャイルドケアSEDスクール岡山早島Plus*		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 15日 ～ 2025年 10月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	2025年 10月 15日 ～ 2025年 10月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通所のため、お子さまの特性やプログラム内容のねらいや内容を保護者と共有することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りの時間確保が十分にあることで次につながる活動を保護者と一緒に考えている。 ・ 保護者に療育場面を見てもらうことで得意不得意、できるようになったことなどの発達のだ筋の共通認識ができている。 ・ 一人ひとりに合わせたプログラムを提供するため、より深くお子さまの特性を捉えて支援を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者とのコミュニケーションを密にし、ニーズを細やかに拾い上げ、共有しながら療育を進めていく。 ・ 専門性や療育の質の向上のため、定期的な事業所内研修の実施していく。
2	医療的ケアの必要なお子さま（プラスケア児）の受け入れを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心安全にお預かりするための環境設定に配慮している。 ・ 預かりで時間が長い場合、医療からの継続ケアをみんなでかみ砕いて考える時間が持て、その内容を踏まえて、お子さまに活動の提供ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急時対応が確実にできるように定期的なシミュレーションを行う。 ・ 在籍の医療的ケア児等コーディネーターを中心に、就園への移行支援を丁寧に行っていく。
3	多職種で支援ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多職種で多角的にお子さまの特性を捉え、様々な視点から支援内容を相談、検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多職種それぞれの知識や見解を共有し、多様な視点を生かした訪問支援を実施する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士が交流できる場が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ療育時の振り返りでは、保護者同士が自由に話せるフリートークの時間を設けることもあるが、それ以外では、まだ保護者会の開催実績がなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、就園や就学に向けてのテーマで保護者会を企画していく予定。
2	放デイの受け入れがない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者からの希望はあるが、利用児の低年齢化により、放デイ受け入れの余裕がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放デイがないため、就学先への引継ぎを丁寧に行い、就学後の相談にも対応していく。 ・ 相談支援専門員と連携しながら、児の特性やニーズに合った放デイを提案していく。 ・ 可能であれば、保育所等訪問支援に繋げていく。
3	ペアレントトレーニングの実績がない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分野に関する知識は習得しているが、実施実績がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずは、お子さまの望ましくない行動に対して、ABA（行動応用分析）の考えを用いて、行動の「きっかけ」「行動」「結果」の一連の流れを分析し、支援を行っていきます。